

令和 7 年度第 2 回大分支部評議会議事録

開 催 日	令和 7 年 10 月 28 日（火） 10：00～12：00
開 催 場 所	J:COM ホルトホール大分 「201 会議室」
出 席 議 員	石井評議員、金崎評議員、亀井評議員、河野評議員、佐藤評議員、 原評議員、藤嶋評議員、渡辺評議員（五十音順）
議 題	<p>（１）令和 8 年度保険料率に関する論点について</p> <p>（２）令和 8 年度大分支部事業計画（案）及び保険者機能強化予算（案）について（第 1 回）</p> <p>（３）協会けんぽ DX について（電子申請、けんぽアプリ）</p>
議 事 概 要 （主な意見等）	
<p>議題 1. 令和 8 年度保険料率に関する論点について</p> <p>＜事務局＞</p> <p>資料に基づき説明を行った。</p> <p>〔被保険者代表〕</p> <p>協会けんぽは中長期的に 10%を維持しつつ、安定した財政運営を確保することを基本方針としている。その上で、被保険者の納得性や保険料率の軽減の観点から以下の点を注視する。1 つ目に準備金の適正水準を明確にし、柔軟かつ合理的な料率設定を可能とする仕組み作りの構築。2 つ目に国庫補助率を現行の 16.4%から法定上限である 20%へと引き上げる取組み。3 つ目に都道府県間で依然として大きな差がある料率を縮小するため、地域医療体制の改革とインセンティブ制度の見直しを取り組むこと。4 つ目に予防健康づくりの推進による医療費の適正化。</p> <p>また、資料 1-1 の 5 ページ目にある「短時間労働者等への被用者保険適用拡大による財政負担」という点や、他の健康保険組合が赤字で解散となった場合の受け皿が協会けんぽということであれば、国民生活のインフラである健康保険制度への国の関与として国庫補助率は低すぎるので、もっと上げるべきではないかと思われる。</p> <p>〔被保険者代表〕</p> <p>中長期の安定した運営ということを考えた場合、保険料率が 10%なのはやむを得ないと思う。しかし、毎回論点となっている準備金について、現状、法定準備金 1 カ月分との差が広がっているところでもともと法定 1 カ月分というのが適切なかが不明である。また、世間では税収のことが話題となっていること等を考慮し、社会保険料関係で積みあがっている準備金について、事業主や被保険者に丁寧に説明する必要がある。準備金の内容の明確化も必要だと思われる。</p> <p>〔被保険者代表〕</p> <p>平均保険料率 10%維持は仕方ないと思う。政府において社会保険料の引き下げの方針となった場</p>	

合に、どのような手順や仕組みで社会保険料が下がるのか心配している。準備金を以前までは長期運用していなかったのが珍しく感じていたが、今後も安定的に準備金を確保するためにも長期運用することはいいことだと思う。

〔事業主代表〕

将来的に長期運用をして運用益が出た場合、保険料率にどの程度の影響があるのか試算をしてほしい。賃上げしても手取りが増えない中で、若い世代の人たちにも希望が持てるような仕組みづくりをしてほしい。

〔事業主代表〕

平均保険料率の引き下げを要望する。現在 6.6 か月分の準備金が積み上がっており、法定準備金が 1 か月となっているのであれば基準よりも多く積み上がっているわけであるし、現状を適正とするのであれば 6 か月を法定準備金の基準として法改正するべきだと考える。今後も積み上がっていく試算なのであれば、保険料率 10%維持はありえないのではないかと考える。大分支部はインセンティブを受けても都道府県単価保険料率は 10%を超えている状態なので、(協会けんぽが) 10%を上限だと考えているのであれば、全国で一番高い県でも 10%を超えないように設定し、その保険料率に対してインセンティブで還元するような形をとってほしい。中小企業にとって、最低賃金の引き上げや物価の上昇に苦しんでいるところに保険料率 10%がのしかかってくるのは厳しい状況である。

〔学識経験者〕

過去の経験から、準備金が枯渇し財政がマイナスになった時期があったりと安定しない時期があるのは望ましくないと考えるため、長期的にみて安定した財源が保たれている方がよい。また、協会けんぽのソルベンシー・マージン比率は 245%で 200%を超えていること、また、他の団体と比較してもそれほど高い率でもないことを考えると、保険料率 10%維持は妥当ではないかと考える。

ただ、不安要因として短時間労働者や個人事業主の方の適用拡大は、収支面のマイナス要因だと思われる。そのため、国庫補助率の引き上げにより国が責任を持って補填していかないとはいけないと思うので強く要望してほしい。

政策で保険料率を引き下げることとなった場合、被保険者などが負担して積み立てた準備金を崩してまで短期的な政策で保険料率を下げる必要はないため、そういった動きをしないよう国に強く要望してほしい。

〔学識経験者〕

国民からの保険料率を下げしてほしいという要望の下で、政府においても社会保険の給付と負担を検討する動きがある。しかし、協会けんぽにおいては今年度も準備金が積みあがっていくことは変わらない中で、保険料率について加入者に丁寧な説明が必要であり、理事長の 10%を超えないようにするとの考えに対しては昨今の物価高の影響により生活が厳しい方々もいるため、将来的には少なくとも 9%台に持って行ってほしい。加入者の医療費適正化となる事業を進め、保険料率を引き

下げるために加入者メリットを追求すべき。

〔学識経験者〕

資料から 10%を引き下げるのはなかなか難しいかと思われる。しかし、社会保険は相互扶助の考えのもと成り立っている制度だが保険料については逆進性が高いため、所得の高低差が表れやすく所得の低い方は特に可処分所得が目減りするので、若手などの低所得者をどうサポートしていくのがポイントだと考える。また、国からも支援が必要だと考える。将来的に 9%台に持っていく方向で協会けんぽには動いてもらいたい。世界中インフレの中で、ヨーロッパでは社会保険料を減らしているが、日本の事業主や被保険者は社会保険料が減らないまま 20 年間継続して負担しているので、このあたりが低所得者層の負担を軽減化していく一つのタイミングではないかと思う。

〔事務局〕

協会けんぽの運営資金は、加入者への健康投資である保健事業に使うべきなのは大前提であり、健診受診率や重症化予防における医療機関受診率などをもっと上げていくことが、保険料の引き下げにも繋がっていくのかと考える。

議題 2. 令和 8 年度大分支部事業計画（案）及び保険者機能強化予算（案）について（第 1 回）

＜事務局＞

資料に基づき説明を行った。

〔被保険者代表〕

親子参加型の健康教育について、学校におけるプログラムの一部に介入するのは難しいと思うが、夏休みに実施することで参加数は増えるのではないかな。

学齢期における健康教育の推進事業については、県の教育委員会へ働きかけを行い各市町村教委へ働きかけを行ってもらいと良いのではないかな。

〔事務局〕

親子参加型の健康教育については、今年度大分県と共同で実施をし、各市町村にノウハウの提供を行い横展開として拡充していきたいと考えている。

県への働きかけは行っているが、引き続き強く働きかけをしていきたいと思う。各市町村へも市長への表敬訪問の際にトップセールスで働きかけを行っていく。

〔被保険者代表〕

今後マイナ保険証へ移行する中で、ジェネリック医薬品希望シールの使い道の検討をしてほしい。

〔事務局〕

今後よりよい方法を検討したい。

〔被保険者代表〕

SNS を活用した糖尿病予防啓発動画については、健診結果を見て改善しようと思っている人に一定の効果があると思う。

〔学識経験者〕

要所見者への受診勧奨を経営者側より積極的に行ってもらよう、意識付けをしてほしい。

〔学識経験者〕

喫煙糖尿病対策事業において実際に出張講座で訪問した事業所の評判はどうか。

〔事務局〕

医療費や健診結果の分析は翌年度以降となるが、アンケート結果は概ね好評であった。

〔事業主代表〕

学齢期における健康教育の冊子については、駅前で配布をしたり、各種関係機関に設置を依頼し、使いたい人に使ってもらえるようにしてほしいと思う。

〔事業主代表〕

事業実施に係る調達の際は委託業者はどのように募集しているのか。

〔事務局〕

多くの業者から応募があるように仕様書を適宜見直し、複数の業者に声掛けをするようにしている。

〔学識経験者〕

学齢期の健康教育や糖尿病喫煙対策については定量データや定性データをうまく組み合わせて分析を行うことが重要である。大分大学など県内の教育関係の学術機関と共働することは教育と社会課題の解決の両面の意義がある。

議題 3. 協会けんぽ DX について（電子申請、けんぽアプリ）

＜事務局＞

資料に基づき説明を行った。

〔学識経験者〕

けんぽアプリの開発費用はいくらか。

〔事務局〕

確認をして改めてお知らせをする。

以 上	
特 記 事 項	<ul style="list-style-type: none">・傍聴者なし・次回の支部評議会は令和 8 年 1 月を予定